

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-153	23-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Risk factors for increased alcohol consumption among young adults during COVID-19 COVID-19 禍での若年成人における飲酒量増加の危険因子		
執筆者		
Rudenstine S, Schulder T, Bhatt KJ, Ettman CK, Galea S.		
掲載誌		
J Am Coll Health. 2024 Feb-Mar;72(2):487-492. doi: 10.1080/07448481.2022.2040518.		
キーワード	PMID	
飲酒、不安、うつ、ストレス、COVID-19	35380924	
要 旨		
<p>目的: COVID-19 禍の主に社会経済的地位の低い学生集団を対象に、精神症状やストレスが飲酒量増加に与える影響を検討した。</p> <p>方法: ニューヨーク市立大学の各キャンパスで少なくとも1つのコースに登録した学生を対象とした (2020年4月: 2,925人、2020年7月: 1,073人)。人口統計学的特性、ストレス要因、うつ病や不安症の診断の可能性、飲酒の状況を自己報告調査により収集した。頻度分析と多変量ロジスティック回帰分析を用い、ストレス要因等と飲酒量増加との関連を検討した。</p> <p>結果: ストレスレベルが高い群で飲酒量が増加した割合が有意に多かった (4月: 63.2% vs 36.8%、7月: 54.9% vs 45.1%)。特に4月には、友人や家族と会えないこと、食料や物資の不足、経済的問題など多くのストレス要因が関連していたが、7月には家族や関係の問題、孤独感、経済的問題の3つの要因が主に関連していた。また、うつ病や不安症の診断の可能性が高い学生は、両時点で飲酒の増加率が高いことが示された (うつ病: 4月 59.4%、7月 44.9%、不安症: 4月 54.7%、7月 48.3%)。</p> <p>結論: COVID-19 禍の大学生の飲酒増加に対するストレスとメンタルヘルスの重要性を強調していた。特に、低所得層の学生において、累積ストレスや特定のストレス要因が飲酒の増加に関与していることが示された。これらの結果は、大規模なトラウマイベント後の飲酒の増加を防ぐために、経済的、社会的、心理的な支援が必要であることを示唆している。</p>		